駒澤大学禅文化歴史博物館紀要創刊のご挨拶

駒澤大学禅文化歴史博物館長　永井　政之

平成27年秋に開催された禅文化歴史博物館運営委員会の承認を得て、本号から従来の「年次報告書」のスタイルを改め、『駒澤大学禅文化歴史博物館紀要』を刊行することになりました。

言うまでもなく「年次報告書」は本館の１年間の活動記録です。昨年は初年次教育への協力にはじまり、東皐心越展、大本山總持寺峨山禅師大遠忌参拝など、例年にない盛りだくさんの事業を行いました。関係各位の御協力を得ていずれも好評の内に無事円成したことが「年次報告」を通して御理解頂けると思います。

新たに加わった「紀要」の部分は、禅文化歴史博物館運営委員の先生方による広報を通して、基本的には執筆者を公募した結果です。

振り返ってみれば本館が発足して14年、何とか博物館としての体裁を整えつつ、活動を継続して参りました。私自身、館長を拝命して３年余、学芸員諸氏が必ずしも恵まれているとは言い難い条件の下で、「心の世界」をいかに的確に展示解説するか苦心するのを目の当たりにしてきました。それだけでも十分に「研究」と言って良いのかもしれません。同時に「禅」の具象化･可視化は当然ながら、その土台となるべき世界に対するさらなる確認があって、はじめて「具象化・可視化」が意味を持つとも思量しております。

「百尺竿頭進一歩」の言葉を想起したいと思います。

さまざまな議論を経ての本号の刊行です。十分な準備もできない短期間の展開であったため、本号の執筆者は本館関係者、大学院生など思いのほか限定された範囲に止まってしまいました。

その他、反省すべき点なしとしないのですが、ともあれ紀要第１号をお届けすることをもって、本号が、博物館以上の使命を目指している「禅博」の道標の一つになってくれればと念じています。